

四季折々の森の植物や鳥・虫などの動物を紹介します

ドングリのなる樹の花(ブナ科)

森では今、ドングリのなる樹の花が咲いています。しかし、“ああドングリの樹の花が咲いたな”と眺める人は少ないでしょう。花はオシベの花粉をメシベの先(柱頭)に運ぶ方法から、虫媒花、鳥媒花そして風媒花などに分けられます。虫媒花や鳥媒花は花がよく目立つように美しく派手であったり、よい香りがしたり、甘い蜜を分泌したりします。これらは、鳥や昆虫を誘い込み花粉を運ばせることを目的として進化してきた植物です。いっぽう、風媒花は風によって花粉が運ばれるので、美しい花びら、よい香り、甘い蜜などはなくてよいのです。私たち人間にとってもあまり魅力を感じられない花ですから、花が咲くことすら知られていないことがあります。身近な植物で皆さんがよく知っておられるのは、虫媒花ではカボチャ、スイカ、リンゴなど、風媒花ではイネ、トウモロコシ、ヤナギなどがあります。



ドングリのなる樹をまとめてブナ科と呼びますが、ブナ科の植物のうちブナ、カシ、ナラ、クヌギなどは風媒花です。また、クリ、シイ(スダジイ、ツブラジイ)、マテバシイは虫媒花で花に独特の生臭い香りがあります。この香りが小型の甲虫類、ハナアブ、ハチ類などを引きよせ花粉を運んでもらいます。

ドングリのなる樹をまとめてブナ科と呼びますが、ブナ科の植物のうちブナ、カシ、ナラ、クヌギなどは風媒花です。また、クリ、シイ(スダジイ、ツブラジイ)、マテバシイは虫媒花で花に独特の生臭い香りがあります。この香りが小型の甲虫類、ハナアブ、ハチ類などを引きよせ花粉を運んでもらいます。

ウバユリ(ユリ科)

「里の森ゾーン」にウバユリが咲きます。花は緑白色で、長さ12-17cmの細長い花びらがやや不規則に並びます。花期は6-7月で、茎の上部に横向きの花をつけます。秋に長さ4-5cmで楕円形の果実をつけます。

扁平な種子には広い膜があり、長さ11-13mmの鈍三角形になります。ウバユリは関東から西一帯に分布し、かつてはケヤキ林であったと考えられる竹林の下に見ることが多いと言われています。ウバユリはユリの仲間ですが、花の形、果実のさけ方、葉の形などユリと違った点があります。名前の由来は、花の咲く時期に葉がないことからついたと言われていますが、葉が残っていることもあります。



ネジバナ(ラン科)

草地広場を歩いていると、ネジバナがかわいい花を咲かせているのをよく見かけます。この植物は花のつきかたが他の植物と違っているのです。小さな赤からピンク色の花が茎に螺旋状についているのです。どういうわけか芝生を好み新しく芝生を造成すると数年ぐらいに自然に生えてくるようです。ネジバナは最も身近な野生ランです。種子は粉のように細かく、風によって遠くまで運ばれていきます。



ハコネウツギ (スイカズラ科)

森づくりセンターから北側の園路を「出会いのゾーン」の方向に進むと橋にさしかかります。この橋を渡ってすぐ左方向の道を下の方に引き返しますと、斜面にハコネウツギが生えています。

ハコネウツギ (箱根空木) はスイカズラ科の植物の1種で、別名はベニウツギとも呼ばれます。花は咲きすすむにつれて白から薄いピンクそして赤へと変化していきます。花が鮮やかなので庭木として古くから鑑賞されています。江戸時代に日本にやってきたシーボルトはこのハコネウツギをその名の由来である箱根山を江戸参府の際に超えたとき、目にすることがあったのでしょう。その覚書に「本種はその名を箱根山によっている。箱根の海拔は2000~3000フィートの高さのところで、他の低木と混じることなく谷全体を埋め尽くすように生えている」と述べているそうです。現在、ハコネウツギは箱根にはわずしか自生していませんが、谷一面を埋め尽くすハコネウツギの群落はさぞ美しかったことでしょう。



キジ(キジ科)

夏草が生い茂ってくる6月頃、園路を歩いていると突然足下から鳥が飛び立ち驚くことがあります。この鳥はキジです。キジは他の鳥と見間違えることはありません。オスは頭部の赤い肉垂れと鮮やかな金属光沢をもつ紫の首、そして緑の胸が目印です。メスは全体にまだら模様の茶色の斑点をもっていますが地味な羽毛です。草地で「ケン、ケン」と大声で鳴きます。

2001年に「びわこ地球市民の森」がオープンしたあと、滋賀県猟友会の方々が毎年30羽ほどのキジを3年間にわたって放鳥されたので、現在もかなりの数のキジがこの公園に生息しています。



ネムノキ(マメ科)

「ふるさとゾーン」の2本のエノキのそばと、「ふれあいゾーン」のビオトープ池の近くにネムノキがあります。6月から7月にかけてふわふわと風にゆれる細い糸のような美しい花が見られます。

糸のように見える花は多数の小さい花が集まって、そのオシベが突き出たものです。花は夕方に咲きます。夜になると、両手を包むように葉を閉じるのでネムノキの名前がついています。葉は鳥の羽のように小葉が連なった複葉です。このように夜になると、葉を閉じる植物は結構多く、クズ、フジ、ニセアカシア、クローバー、カタバミ、などがあります。
《現在、ネムノキはまだ花をつけていません》



カワセミ(カワセミ科)

水路沿いを歩いていると、ときどきカワセミに出会います。「チー、チー」と鋭い声で鳴きながら水面すれすれを一直線に飛び去ります。背は見事な青色で宝石のように美しい輝きです。

胸から腹はオレンジ色、黒く太めの長い嘴で魚や水生昆虫を捕らえます。メスは下嘴が赤いのでオスと区別できます。川沿いの崖に穴を掘って巣を作りますが、最近は琵琶湖岸近くの水路でもカワセミを見かけることがあり、水田の水抜き用パイプなどを巣作りに利用している可能性があります。

